



はんのう 民児協だより

発行/飯能市民生委員児童委員協議会
編集/広報委員会
事務局/飯能市健康福祉部地域・生活福祉課内
TEL(042)986-5081(直通)

自治会役員と民生委員児童委員の連携



精明第二民児協 副会長 岡田 鈴江

私の担当地区は青木第一自治会に属しており、自治会活動にも協力をしております。

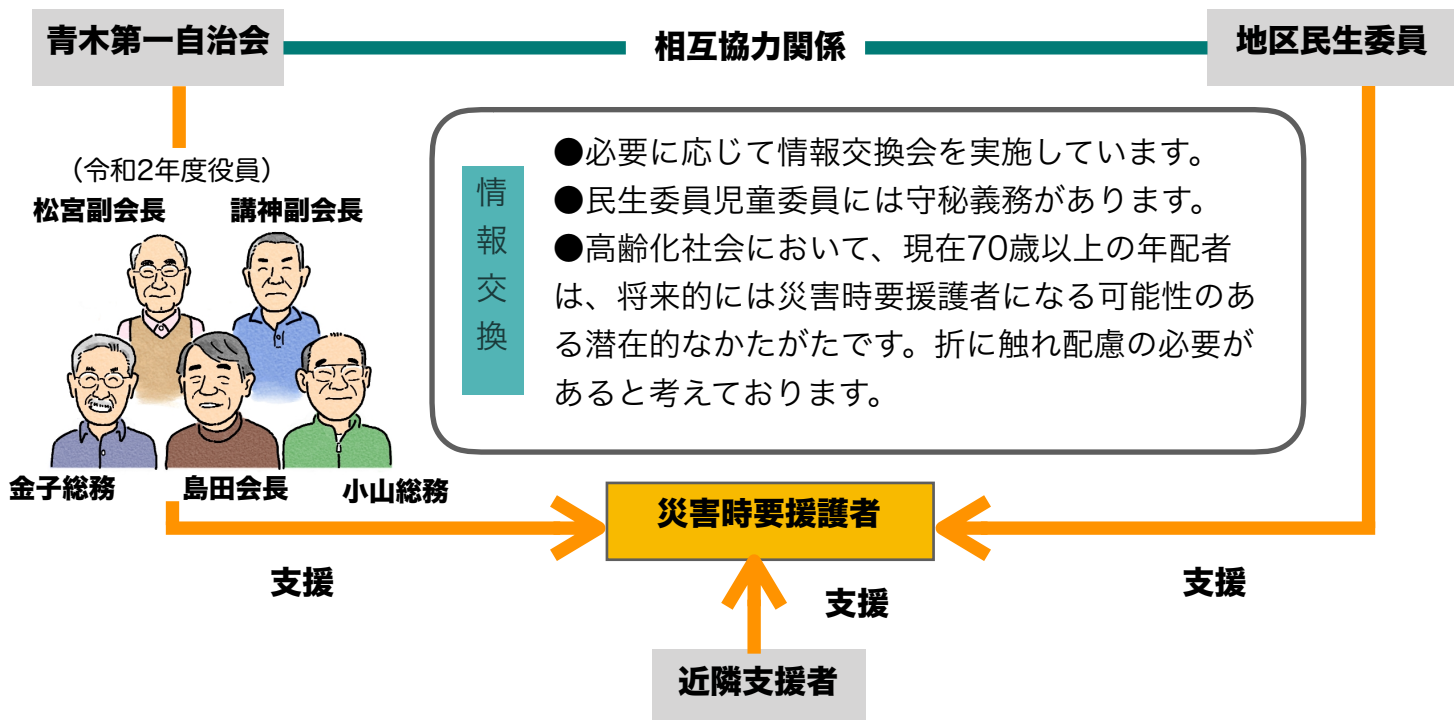
日頃から地域とのつながりを強く大切に感じ、自治会と協力しながら民生委員活動を行っております。自治会活動への協力としては、自治会役員や災害時要援護者に関する会議に出席したり＊げんきかや、敬老会等の行事にお手伝いとして参加しております。自治会役員の方はとてもチームワークが良く、思いやりを持って互いに助け合って自治会活動が行われています。自治会役員の方から連絡をいただいたり、訪問活動中に偶然お会いした時などは情報交換を行い、地域の情報を共有しております。

現在、新型コロナウイルスの拡大が止まらないため、自治会では行事等を自粛しております。人との交流ができず、地域の方からはストレスが溜まったり、地域情報が入らないなど不安の声を聞いたので、地域の皆様に安心して悩み事や相談等をしていただけるように自治会の協力により回覧を回していただきました。ご連絡いただきました悩み事や相談は、関係機関に繋ぐなど適切な対応を取らせていただいております。安心して会える日が来る事を楽しみにしています。

助け合いの精神、感謝の気持ちを忘れず、地域に愛され、必要とされる民生委員児童委員でありたいと思い活動しております。

＊げんきかや…行政の支援ではじめた会であり、現在は自治会主催で民生委員もお手伝いさせていただいております。体操、室内ゲーム、脳トレ、おしゃべり等、お茶を頂きながら親睦を深めています。
(自治会より茶菓の準備をいただいております。)

「災害時要援護者」に対する自治会と地区民生委員の取り組み例



初めての民生委員児童委員・一年間をふりかえって最も心に残った出来事

飯能第二地区 佐々木 鉄夫



早朝、畑に行く途中、独り暮らし高齢者宅の雨戸がいつもと違い、閉じたままであることに気が付きました。変だなと思いながらも畑に行きましたが、帰るときもまだ雨戸はそのままの状態でした。そこで、その高齢者宅を訪問し、インターホンを押しても反応が無く、電話をかけても応答が無いので、＊静かな見守りに登録をお願いしているご近所の方に様子を伺いました。昨日は元気に庭の手入れをしていたとのことでしたが、今日は見かけていないとのことでした。そこで親族に電話した方が良いと判断し、飯能から最も近い親族の娘さんに電話をかけて来ていただくことになりました。

状況を確認するため室内に入ろうとしましたが、娘さんは合鍵を持っていなかったため、警察に通報し、対応をお願いしました。パトカー・レスキュー隊、救急車のサイレンが鳴り響き、到着すると直ぐに道路を封鎖し、救出の準備をしました。

レスキュー隊は私の事情説明を聞き、家の中に入れるスペースを探します。レスキュー隊が小窓から侵入し、玄関の鍵を開けたところを救急隊が家の中に入り、室内で倒れていた高齢者を救出したのです。救急隊から「意識があり大丈夫です」と聞き、ひと安心しました。

その後本人は一ヶ月入院しましたが、現在は無事自宅に戻り、以前と同様元気に暮らしています。

＊静かな見守り・・社会福祉協議会とともに行っている見守り活動

支援を希望する方と近隣に住む支援者の双方から承諾を得て、サポーターとして登録をお願いする制度です。



見守る人も
見守られる人も
安心につながる



「いつもとちがう」「おかしいな？」と感じたら、お近くの**民生委員児童委員**にお知らせください。

異変のサイン

- ・郵便物や新聞がポストにたまっている
- ・訪問しても顔を出してくれない
- ・顔色が悪い
- ・以前と比べて痩せた
- ・いつも来るはずの行事に来ない
- ・夜になっても明かりがつかない
- ・昼間なのに外灯が付いたままになっている
- ・洗濯物が何日も干したまま
- ・家の周囲や庭が荒れている
- ・変なおいがする
- ・ゴミ出しの時に会わなくなった
- ・おしゃれに気を使わなくなった

見守りとは、ちょっとした気づき、具体的な支援につなげる活動にもなります。いつもとちょっと違うということに気づくことが大切です。民生委員児童委員だけでは十分とは言えません。地域の皆さんの見守りの目が早期発見・対応につながります。

支援が必要になる前の元気な時からの気かけ、気かけられる関係、そんな「つながり」も大切です。

地区紹介コーナー

美杉台民児協



井上 久美子 会長

秋山 亜維	新井 千映子	荒井 眞理子
井上 桂子	魚谷 月香	大浦 ちづ子
小津 清嗣	金井 慶子	川上 登
北島 学	小嶋 里美	佐野 繁
中野 俊博	村田 あや子	(50音順)

「世の中には、我々の力の及ぶものと及ばないものがある」ことを実感した1年でした。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、リモートワークや外出自粛と言われていますが、私達の行っている民生委員児童委員の活動は、対象の方達を訪ね、声を掛け、見守ることであり、リモートでは済ますことのできない役目です。

このような世の中の動きの中で、ある出来事がありました。対象者はマンションに一人住いの高齢者でした。10年以上前に夫を亡くされ、親戚、ご近所とも疎遠の状態でした。ある日、玄関ドアに3日分の新聞が溜まった状態であるとお隣の方から管理人に連絡がありました。しかし、管理人は家主の許可が無ければ、鍵を開けることも中に入ることもできません。途方に暮れ、自治会長に相談し、自治会長から私への電話となりました。私は以前訪問したときにご本人から緊急連絡先を伺っていたので、管理人さんにお伝えしました。その後、親族の方に連絡が取れ、やっと了解を得る事ができました。程なく警察官が4階のベランダから入り、部屋でその方が倒れている所を発見されました。

幸いなことに息のある状態で発見され、そのまま入院となりました。早くお元気になっていただければと思っています。

当地区は若い世代が住み、児童数も多い地域と、逆に高齢化が進みつつある地域が共存しています。今後とも住民の皆様の協力を得て、地域のつながりを大切に育んでいけたらと願っています。

飯能第二民児協



新井 勝 会長

内山 隆康	大石 由美子	金子 徹雄
木川 千恵子	黒澤 久江	小林 弘子
小林 律夫	古山 勝雄	佐々木 鉄夫
島田 洋一	白井 久恵	白井 政江
杉山 敏子	徳田 千鶴子	中里 敏男
平野 恵子	増岡 美枝子	的板 徳市
宮田 久美子	森住 正弘	山川 安代
(50音順)		

飯能第二民児協の担当地区は、市街地から永田台・第二区地区の久須美・小瀬戸・小岩井までと広く、個々の民生委員児童委員の担当地区も範囲や世帯数が大きく異なっています。地区内には12の自治会があり、子供達が通う学校も小学校3校、中学校2校になっております。そのような多様な環境にあって、民生委員児童委員も地域に合わせた活動をしており、定例会ではその活動について報告をし、訪問活動等に活かしております。

また、毎月第2・第3火曜日に、地域包括支援センターはちまん町が開催している「ひだまりカフェ」にも協力しています。地域に住む高齢者、その家族の人等、誰でも気軽に集まりお茶と会話を楽しみながら、いろいろな相談もできる場所です。同様に永田台地区でもサロン活動に協力しています。

しかしながら新型コロナウイルス感染症の感染予防・感染拡大防止により、あらゆる行事が中止になり、民生委員児童委員による訪問活動、面談も控えている状況になっております。

現在の活動としては研修として三密を避け、ソーシャルディスタンスを図った出前講座の受講と、最小限の訪問活動を行っていますが、今後は民生委員児童委員として、どのような活動ができるか、話し合いながら取り組んでいきたいと考えております。

地域でサポート 認知症高齢者

おでかけ見守りシールとは？



おでかけ見守りシール

「認知症になっても、
安心できるまち」
を目指して

このシールは認知症や見当識障害により、
自宅や施設から外出したまま所在が分からなくなっ
た時に、ご本人の早期発見と安全確保および介護す
る家族などの負担軽減を目的としています。

申請を希望される家族の皆様へ

- 1) 介護福祉課（042-973-3753）
または担当ケアマネジャーに
相談して下さい。
- 2) シール（10枚組）を交付します。
介護福祉課から提示される登録番号
をシールに記載して貼り付けて下さい。



アイロンやドライヤーで洋服や持ち物
（バック、杖など）につけられます。

地域の皆様へ

シールを身に付けている方は
支援が必要な方かもしれません。

- 1) 不安そうにしていたら次の3つのポイント
に注意して、優しく声かけをお願いします。

認知症の人への対応の心得・3つの『ない』

- *驚かせない
- *急がせない
- *自尊心を傷つけない

- 2) 携帯電話、スマートフォンで
QRコードを読み取ります。
- 3) 表示される市役所の電話番号または、
最寄りの警察署に連絡をし、登録番号を
伝えます。

編集後記

この号を編集している時、新聞の読者からの投稿で
心に響いた一文がありました。

誰しも病などでいつ誰かの助けが必要となるか分か
りません。「迷惑をかけてはいけない」より「迷惑を
かけることを許しあえる」社会のほうで安心できるの
ではないでしょうか？ 「迷惑をかけてはいけない」
の思いが自分たちを生きづらくする気がします。

「不寛容な時代」と言われて久しい今、容易なこと
ではないけれど「他人事」を「自分事」にできればと
思います。

広報委員

徳田 / 川上



子供吐るな来た道だもの
年寄り笑うな行く道だもの